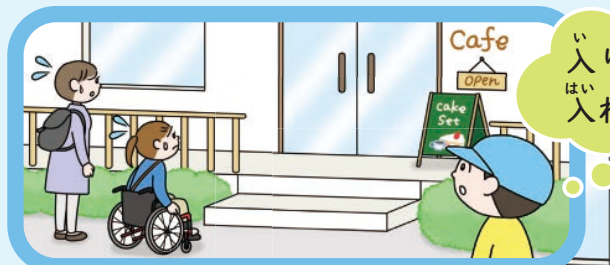


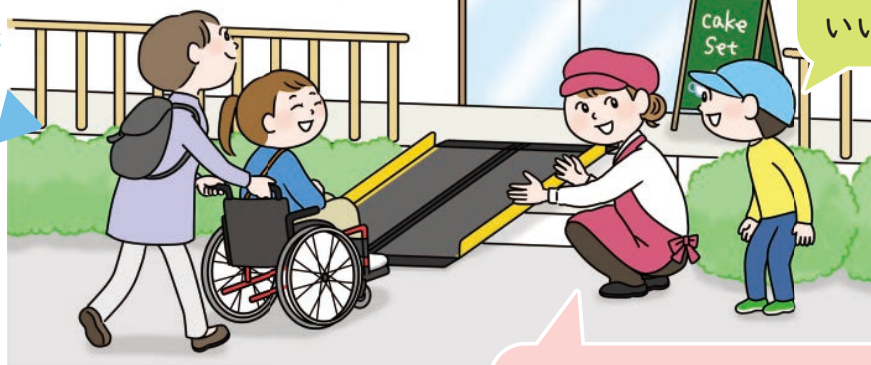
2

「心のバリアフリー」の ためにできること

2 ページの車いすを使っているAさんは入り口に階段しかなくて中に入れません。

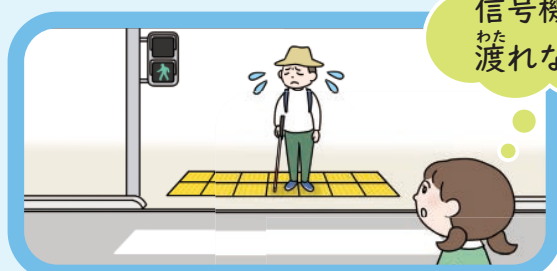


入り口に階段しかないから
入れないんだ…。



入り口を直せば
いいんじゃない？

また、3 ページの目が見えないBさんは
信号機の色が見えていないので
横断歩道を渡れません。



信号機の色が見えないから
渡れないんだ！

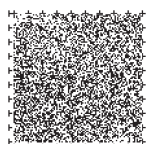
「青になりました」ってしゃべる信号機なら、
見えなくてもわかるよ。



青になりましたよ

音が出ないときは、
まわりの人が信号機の色を
伝える方法があるね。

声をかけてくれて
ありがとう



では、4ページの^{みみ き}耳が聞こえないCさんについて^{かんが}考えてみましょう。

^{なに}何があったのかな？
^{しゅっぱつ}いつ出発するのかな？

^{うん てん さい かい}運転再開まで
40分^{ぶん}かかる^{よ てい}予定です



もしかして、
^き聞こえていない
のかな？

ワーク Cさんに対して、あなたが^{たい}できることを^{かんが}考えてみましょう。

Blank area for writing answers to the worksheet question.

コラム

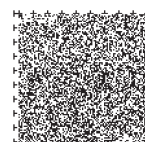
^{まち だし やくしょ}町田市役所ではどうしてる？

^{みみ き}耳が聞こえない
^{しゅ わ つう やく}ので、手話通訳
をおねがいでき
ますか？

わかりました。
^{ひつ だん}筆談でおねがい
します。



すみません
^{しゅ わ つう やく しゃ}手話通訳者は
^{いま たい おう ちゅう}今 対応中なので
^{すこ ま}少しお待ちいただくか
^{ひつ だん}筆談なら ^{わたし}私がすぐ
^{たい おう}対応できます



「障がいの社会モデル」とはなんだろう？

6 ページで車いすの人が階段しかないお店に来たとき、店員さんは、車いすの人にどうしたらよいか確認して、スロープを用意しました。そのあと、店員さんは「車いすの人がお店に入れないのはおかしい。車いすの人が入れないお店の方が問題だ。」と思い、入り口を階段とスロープの両方に直したそうです。

あなたは「車いすの人が入れない入り口に問題がある」というように“本人ではなく「まわりにバリアがある」ことに問題がある”と気づきましたか？

つまり、

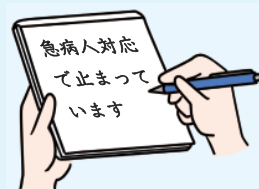
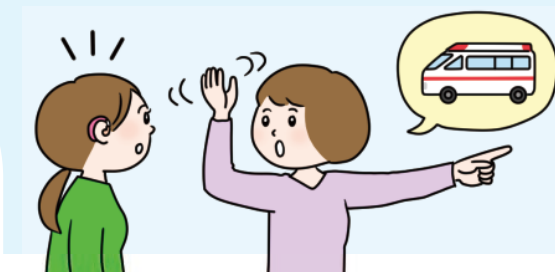
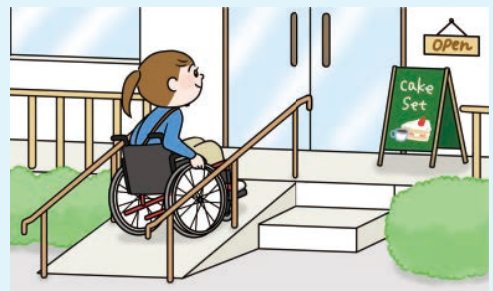
障がい（バリア／障壁）は本人ではなく、まわりの環境の中にある

と考えられます。このような考え方を**障がいの社会モデル**といいます。

誰もが暮らしやすいまち（社会）にするためには、まち（社会）のバリアをみんなで取り除くことが大切です。

階段のような「目に見えるバリア」を解消するには、時間やお金がかかりますが、私たち一人ひとりの声かけ、サポートで解決できる部分もたくさんあります。

例えば、7 ページに出てきた耳が聞こえないCさんに対しては、ジェスチャーや筆談で伝えることができます。



きゅうびょうにんたいおう
急病人対応で
止まっ
ていま
す



じゃあ、
わたし
私たちにできることって、
どんなことかな？



こえ
声かけから
はじめてみようかな

こえ 声かけのポイント

その1

あいて かお み いどう
相手の顔が見えるように移動します。
(うし こえ
後ろから声をかけるとビックリしてしまいます。)

その2

あいて かお み
相手の顔を見て、
なに て つだ
「何かお手伝いできることはありますか？」と聞きましょう。



め み ひと ば あい うで かた かる あいず
➡ 目の見えない人の場合は、腕や肩などを軽くさわり、合図します。

み き ひと ば あい はず くち かたち み
➡ 耳の聞こえない人の場合はマスクを外し、口の形を見せます。

しゃ かい なか ひと
まち (社会) の中にはさまざまな人がいて、
いろいろなコミュニケーション方法があります。

ことわ もし、断られてしまったら…

もしかしたら、「だいじょうぶです」と断られてしまうかもしれません。
そのときは、「いま こま
今は困っていなかったんだ！よかった〜」とあんしん
してください。

そして、また困っている人を見かけたら、こえ
声をかけてみてください。

こま
「困っているかもしれない」と気づけることが大切です。

コラム

ほん にん こえ
本人に声をかけましょう

あなたがこえ
声をかけたいひと
のとなりサポートする人(家族、
しやわつうやくしゃ かいじょしゃ ば あい
手話通訳者、介助者など)がいる場合があります。

はなし
話をするときは、サポートする人ではなく、こえ
声をかけたい人
に向かって話しましょう。

ちよくせつ
直接その人と話せない場合でも、サポートする人といっしょ
にその人の思いを確認します。

ほん にん
本人ではなく、サポートする人と話すと、本人は無視されて
いるように感じて嫌な気分になります。

